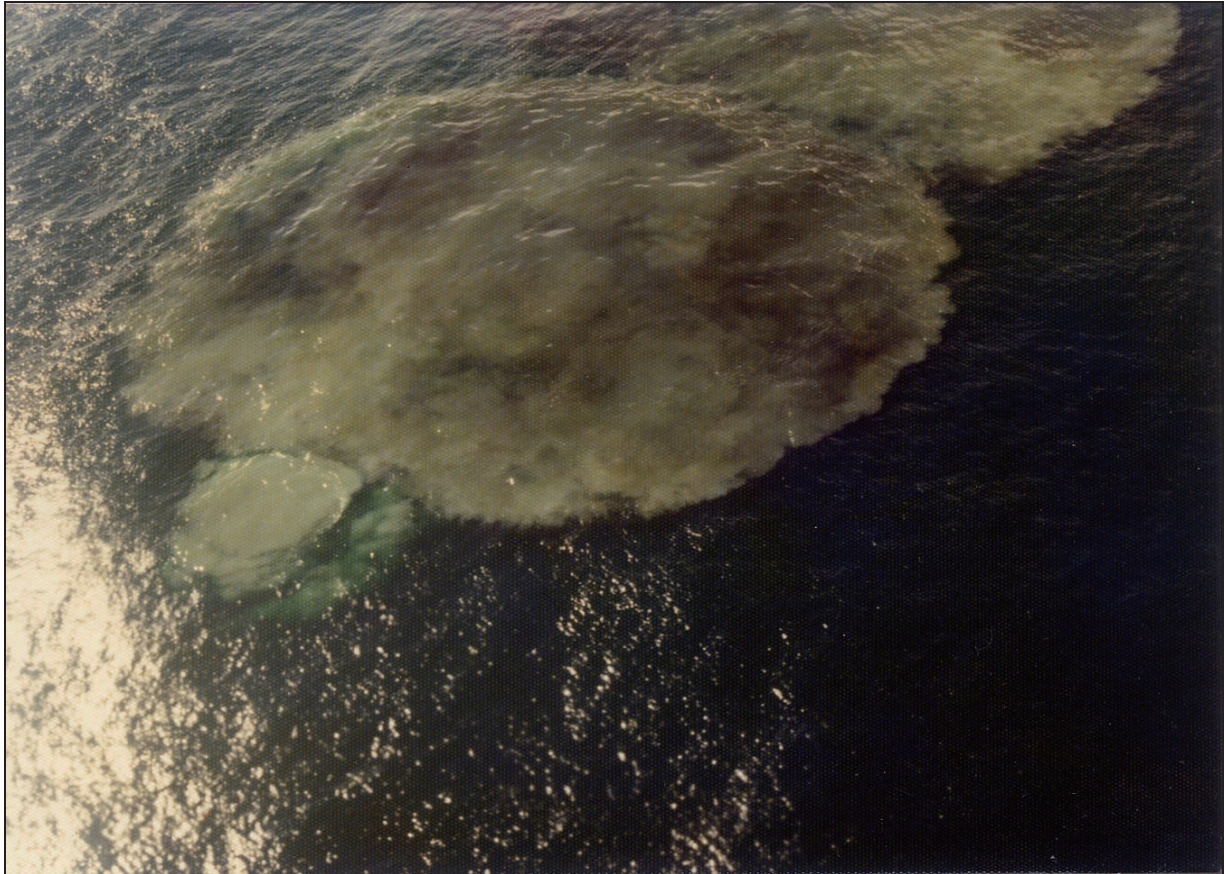
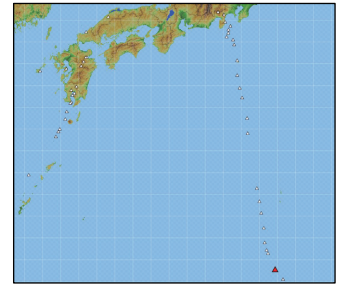


77. 南日吉海山 みなみひよしかいざん Minami-Hiyoshi Seamount

北緯 23° 30.0′ 東経 141° 56.1′ 水深-107m (山頂最浅部)



変色水 上空から 1977 年 1 月 10 日 海上保安庁撮影

概要

東京の南約 1330km、硫黄島の南南東約 150km のマリアナ弧北端部に位置する海底火山である。山体はほぼ円錐状で、頂部には直径 1km の火口及び内部には最浅水深 99m の中央火口丘を持つ。また、数列の北北東－南南西に配列した側火山を有している(小野寺・他, 2002)。構成岩石の SiO_2 量は 50.7～62.1 wt.% である。

1975 年以前は噴火の記録は確認されていない。1975 年 8 月、1976 年 2 月に海面の盛り上がりや爆発音を伴う海底噴火があり、さらに 12 月には硫黄の湧出、1977 年には大規模な変色水が観測されている。その後も 1992 年、1996 年にも変色水が観測されている。1996 年以降については目立った活動は報告されていない。

地形図

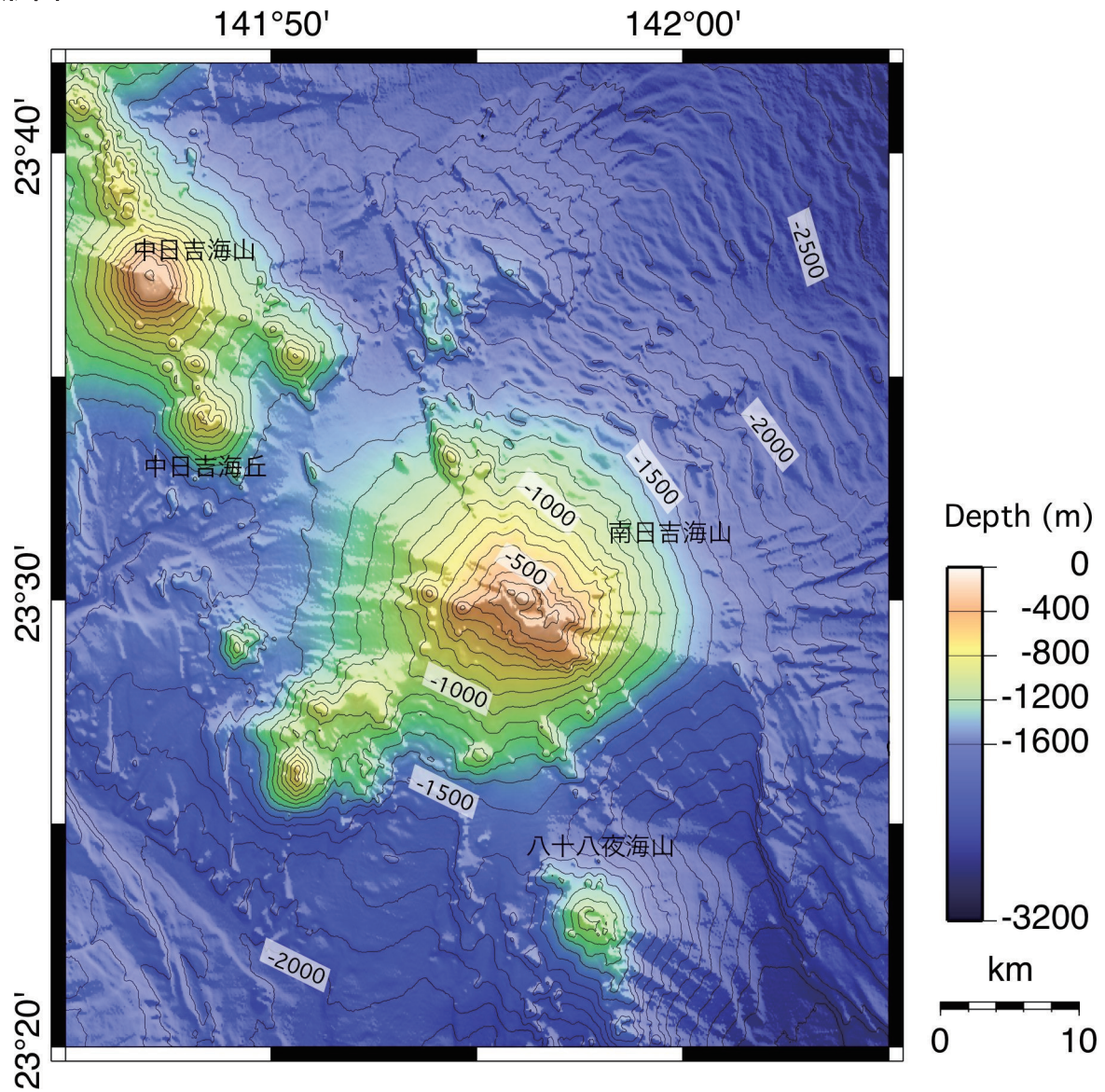


図 77-1 南日吉海山周辺の海底地形図（海上保安庁海洋情報部）.

噴火活動史

・有史以降の火山活動（▲は噴火年を示す）

年代	現象	活動経過・被害状況等
▲1975(昭和50)年 ^{1,3,6}	噴火	8月25日。海底噴火。海面の盛り上がりが消えた後に直径25mの渦発生 ^{1,3,6} 。
▲1976(昭和51)年 ^{1,3,6}	噴火	2月頃。海底噴火の発生。夜爆発音 ^{1,3,6} 。
1976(昭和51)年 ^{1,3,6}	海水変色	12月20日。硫黄湧出 ^{1,3,6} 。
1977(昭和52)年 ^{1,3,6}	海水変色	1月9日～3月28日。1月、大規模な海水変色 ^{1,3,6} 。
1978(昭和53)年 ^{2,3}	海水変色	1月26日～3月24日 ^{2,3} 。
1992(平成4)年 ^{4,6,8}	海水変色	2月12日～3月4日 ^{4,6,8} 。
1996(平成8)年 ^{5,6,8}	海水変色	1月11、12日 ^{5,6,8} 。

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)および海域火山データベース(海上保安庁海洋情報部, 2006)を参考とした。

【引用文献】

- 海上保安庁水路部 (1977) 南硫黄島付近及び南東方海域の海底火山の最近の火山活動等について。火山噴火予知連絡会会報, 9, 20-24.
- 海上保安庁水路部 (1978) 南硫黄島周辺の海底火山の最近の火山活動等について。火山噴火予知連絡会会報, 12, 53-58.
- 小坂丈予 (1991) 日本近海における海底火山の噴火。東海大学出版会, 279p.
- 海上保安庁水路部 (1992) 海底火山等の最近の活動について。火山噴火予知連絡会会報, 52, 102-103.
- 海上保安庁水路部 (1996) 海底火山等の最近の活動について。火山噴火予知連絡会会報, 64, 73-78.
- 伊藤弘志・堀内大嗣・芝田厚・鈴木晃・小山薫 (2012) 日本周辺海域火山通覧(第4版)。海洋情報部研究報告, 48, 41-73.
- 気象庁 (2005) 南日吉海山。日本活火山総覧(第3版), 463-465.
- 海上保安庁海洋情報部 (2006) 海域火山データベース
(<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikidB/list-2.htm>).

近年の火山活動

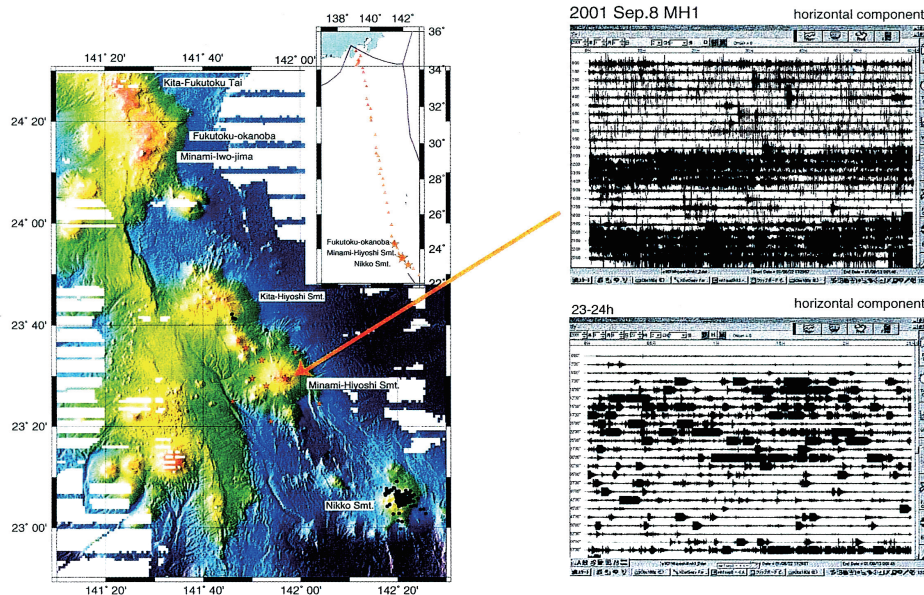


図 77-2 2001 年 8 月 5 日～9 月 10 日の期間の南日吉海山近傍の地震活動 (海上保安庁, 2003)。

震源を決めることのできたほとんどの地震は日光海山周辺で発生しており、世界標準時の 8 月 5 日が最も活動的であった (左図)。また南日吉海山山頂部付近水深 197m に設置した海底地震計 (MH1) からは、この点のみでしか観測されないごく微小なイベントが連続的に発生している記録を得た (右図)。右上は 9 月 8 日の 1 日間の記録であり、右下は 23-24 時の 1 時間を拡大したものを示す。

地下構造

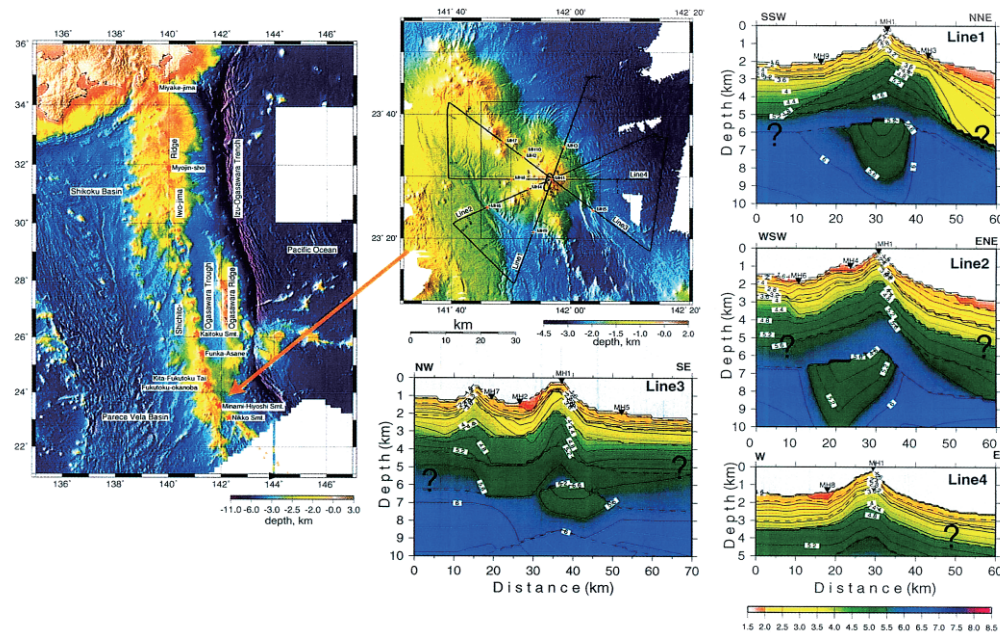


図 77-3 南日吉海山近傍の P 波速度構造（海上保安庁，2003）。エアガン探査測線および海底地震計（赤星印）の位置を中央上に，各測線に対して 2 次元測線追跡法により推定された構造モデルを中央下および右に示す。南日吉海山の直下浅部は周辺よりも高速であるが，深さ 6km 近傍には低速域の存在が示唆される。

関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
東京火山監視・情報センター	（気象庁本庁）東京都千代田区大手町 1-3-4	03-3212-8341
東京管区気象台総務部業務課	東京都千代田区大手町 1-3-4	03-3212-2949

引用文献

海上保安庁（2003）マリアナ弧北端部の南日吉海山周辺における海底地震観測．火山噴火予知連絡会会報，**84**，78-80.

小野寺健英・他（2002）福徳岡ノ場，南日吉海山の地磁気・重力異常及び地震波速さ構造．月刊地球，**39**，165-171.